

高校生多国間交流プログラム アジアユースリーダーズ 2020

Online

# 実施報告書

EON 1%

# 目次

[1]	概	要	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
[2]	趣	旨		•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•				•	•	3
[3]	目	的			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	,	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	• ;	3
[4]	日	程			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	,	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	• ;	3
[5]	開	催	形式	<b>.</b>	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	3
[6]	テ	_ <del>-</del>	₹ ·		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	,	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	• ;	3
[7]	参	加	耆·		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	,	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	• ;	3
[8]	プ	<u>'</u> □:	グラ	<del>,</del> Д	構	成	•		•	•			•	•	•		•	•	•	•		,	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	• ,	4
[9]	ネ	ツ	トワ	<b>7</b> —	ク	構	成	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	4
[10	)]	活動	助の	様	子	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		,	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5
		Ī	講記	ξI	•	チ・	_,	41	ビノ	レ <del>:</del>	デー	1:	ン	グ	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	5
		+	ナ <sub>オ</sub>	<b>†</b> —	タ	<u>_</u> ;	を:	交;	₹-	<b>C</b> (	か <del>.</del>	ディ	1.	ス:	カ	ツ	シ	3	ン	٠,	i	텕	轰:	П	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
			講裏	ŧШ	•	チ・	_,	<u>ا</u>	ディ	1.	ス	יל	<b>ツ</b> :	シ	3	ン	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•				•	•	7
		J	戎月	発	表		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	,	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•				•	• ;	8
		4	כל	1—	ジ	ン・	グ†	ヒ	<u>ー</u>	€:	=-	-,	. 4	参	bai	証	明	書	授	<u> </u>	Ţ ·		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	9
[11	L]	ア	ジフ	'ユ	<b>—</b> .	スリ	IJ-	<b>—</b> {	ダ-	<b>—</b> ;	ズ	20	)2	0	o	nl	in	e	参	力	巾	交-	<b>-</b> 5	覧	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•						•	1	0
[12	2]	参加	加高	校	生	の!	惑	思	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	,	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•				• ;	1	1
[13	3]	各:	チ-	-ム	発	表	内	容	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	,	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•				• ;	1	3
[14	ŀ]		事·																				•																															1	7

各 位

> 公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 事務局長 本田 陽生

## アジア ユースリーダーズ 2020 (第11回)

# 実施報告書

平素より、公益財団法人イオンワンパーセントクラブの活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。 標記の件につき、下記の通り、ご報告申し上げます。

記

- 【1】概 要:アジア 9 カ国の高校生が一堂に会し、社会問題に関するテーマを基に、英語を共通言語としてチームに分かれ、 ディスカッションを通して解決策を提案するプログラム。異なるバックグラウンドを持つ学生たちが、議論を 通してグローバル感覚や互いの価値観への理解を深めることを目的とする。本年は、新型コロナウイルス感染症 拡大の状況を鑑み、オンラインでプログラムを実施。
- 【2】趣 旨: 2017 年~2019 年の 3 年間は、「食と健康」をテーマにプログラムを実施。2020 年は、新型コロナウイルス 感染症拡大により、生活していく上で人として本来の行動様式(移動・集まる・対話)が制限され、身の周りの 環境が大きく変化したことから、コロナ禍に伴う教育面における問題・課題に焦点をあて、3 つのレクチャーを 基に各チームが議論し、改善点・打開策を提案。プログラムを通して得た知識・経験を活かし、参加高校生の行動 変容に繋げる。

#### 【3】目 的:

- 社会・経済・環境等の問題について英語でディスカッション・発表を行い、多国間交流を通じて価値観の 多様性を学ぶとともに同世代の友人ネットワーク構築の機会を提供する。
- 次代を担う若者の社会・環境問題に対する意識の向上、並びに、グローバルリーダーを育成する。
- 現実的な社会・環境問題についての講義受講やチームディスカッションを通じ、解決に向けたロジックを磨く。
- 【4】日程: 2020年12月17日(木)~19日(土)
- 【5】 開催形式: 各国高校生参加者をインターネットでつなぐオンライン形式
- 【6】 テーマ: 「コロナ禍に伴う学校教育上の課題と改善点・打開策について」
- 【7】参加者: インドネシア 7名 日本 21名 7名 7名 カンボジア ベトナム タイ 7名 マレーシア 2名 中国 7名 ミャンマー 7名 ラオス 7名

計72名

#### 【8】プログラム構成:

• 講義 I

「コロナ禍が経済、社会、教育に与えた影響」 国際大学 学長 伊丹 敬之氏

- チームビルディングアクティビティーグローバル教育推進プロジェクト 木村 大輔 氏
- サポーターを交えてのディスカッション 各チームにイオンスカラシップ生およびアジアユースリーダーズ OG にメンターとして 付いてもらい、コロナ禍における教育上の問題・課題について実際に工夫した事例等を チーム内で共有。
- 講義 Ⅱ

「ニューノーマルの時代における SDGs 実現のための教育」 東京大学大学院教育学研究科 准教授 北村 友人氏

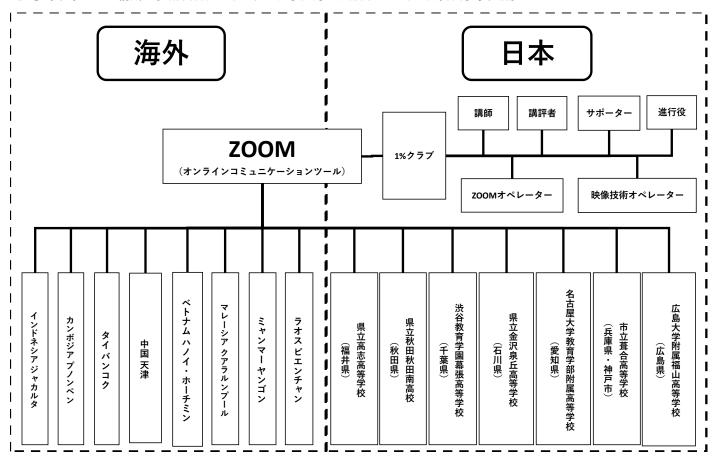
12月18日 講義Ⅲ、チームディスカッション

• 講義Ⅲ

「発展途上国から世界に通用するブランド創り」 株式会社マザーハウス 代表取締役副社長 山崎 大祐氏

12月19日 成果発表、クロージングセレモニー

#### 【9】ネットワーク構成:(\*講演者、サポーター、事務局は、都内 KFC ホール両国より参加)



#### 【10】活動の様子:

#### 12月17日 基調講演 (講義Ⅰ)、チームビルディング、ディスカッション、講義Ⅱ

#### ▶講義 「コロナ禍が経済、社会、教育に与えた影響」について 講師:国際大学 学長 伊丹 敬之氏





↑基調講演の様子

国際大学 伊丹学長より、「コロナ禍が経済、社会、教育に与えた影響」と題し、国際社会の現状についてお話しいただきました。日本の高校生から、現在開催が危ぶまれている東京オリンピックに関連して、「大学において世界が協力できる場所を作るには、具体的にどうしたら実現できるのか」との質問がなされたのに対し、「私たちの大学ではいろいろな国から留学生が来ているので、スポーツイベントをすれば毎年オリンピックのような大会になります。バスケットボールやマラソンなどの競技をするためにはプロジェクトを立ち上げ、協力しなければ開催できません。スポーツ以外の例としては、国際大学の学生が地元農家の田植えに参加し、お米の植え方を教わりながら一緒に美味しいお米を作っています。皆さんもいろいろ試してみてください」と明快にお答えいただきました。

#### ▶チームビルディング





↑画面を通してチームメンバーとお互いに自己紹介をするベトナム高校生(写真左)とカンボジア高校生(写真右)

#### ▶サポーターを交えてのディスカッション





↑ディスカッションの様子

#### ▶講義 「ニューノーマルの時代における SDGs 実現のための教育」 東京大学大学院教育学研究科 准教授 北村 友人 氏



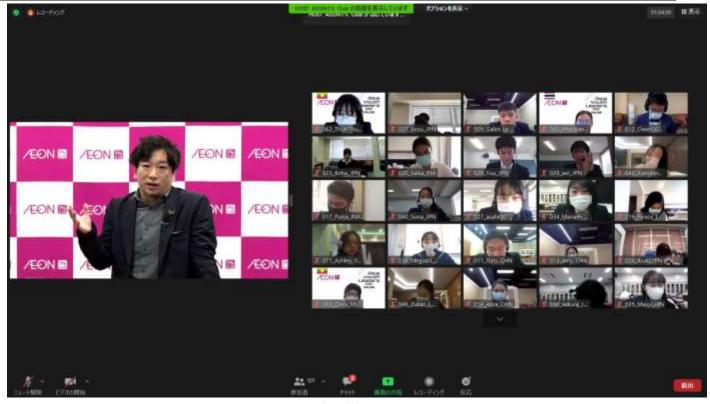


↑講義の様子

東京大学大学院教育学研究科 北村准教授より、「ニューノーマルの時代におけるSDGs実現のための教育」をテーマに、教育現場の現状をお話しいただきました。「学生が常に最新の情報を得るために、教える側の学校は何をしていますか」とのミャンマーの高校生からの質問に、「一人の教師がさまざまな分野に精通し、それをまとめて教えるのではなく、それぞれの専門分野について各教師が行う講義を、学生が取捨選択し、学際的に学ばなければなりません。SDGsの分かりやすい事例として挙げると、地球温暖化は環境問題だが、その原因には経済活動が影響しているというように、いろいろな見方があります。全体を多面的に捉え、合理的な判断をすることが必要です」とお答えになり、学ぶ姿勢と物の見方の重要性を説いておられました。

#### 12月18日 講義Ⅲ、チームディスカッション

#### ▶講義 「発展途上国から世界に通用するブランド創り」 株式会社マザーハウス 代表取締役副社長 山崎 大祐氏



↑講義の様子

「発展途上国から世界に通用するブランド創り」を経営の理念に掲げる(株)マザーハウス 山崎大祐代表 取締役副社長より「コロナ禍での困難・課題を乗り越え、自ら行動していくために」をテーマにご講義 いただきました。同社は、セーフティーネットがない発展途上国でバッグや衣服などの自社製品を製造しており、工場を "第二の家"と位置付け、経営者と雇用者の垣根を造らないよう心がけていること、その ためにインフォーマルな人間関係を大切にしている等、ご自身の体験を踏まえた貴重なお話をして いただきました。インドネシアの高校生から「コロナ禍が世界中で製造業に影響を与えているが、インドネシアではどのように打開したのか」との質問がなされると、「国や地域のルールを順守した上で、職人たちが在宅でも商品を作ることが出来る環境を整えた」とご回答いただきました。

#### **▶ディスカッション**

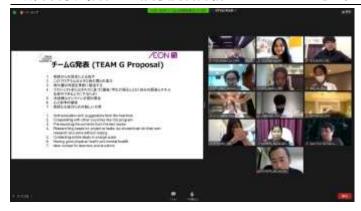




↑チームディスカッションの模様

#### 12月19日 成果発表、クロージングセレモニー

#### ▶成果発表(各チーム発表内容詳細は P.13~P.16 をご参照下さい)









↑成果発表の様子 \*各チームは各 10 分の発表後に講評者よりコメントを頂きました

#### 講評者



三小田 博昭 副校長 名古屋大学教育学部附属中・高等学校

テップ シナット 総局長 カンボジア教育青年スポーツ省

ナット リーラワット 助教授 チュラーロンコーン大学 工学部 広報・国際連携担当 学部長補佐

#### ▶クロージングセレモニー



↑総評を述べる三小田副校長

私たちにとって大きな障害となったこのコロナ禍の状況は、 同時に新しいものが生まれる大きなチャンスです。猛スピード で進歩するICTシステムを使いこなして、君たち若い世代が 未来に向けて新しい世界を作ってください。



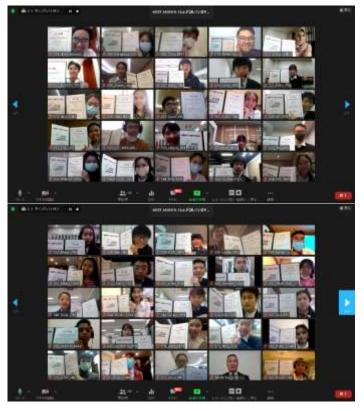
↑講評者とともに発表内容を手に記念撮影する各チーム代表高校生

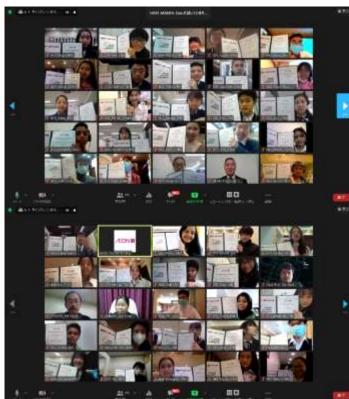
#### ▶参加証明書授与





↑アジアユースリーダーズ 2020 Online のプログラム参加証明書を手に記念撮影する各国高校生





### 【11】アジアユースリーダーズ 2020 Online 参加校一覧

国	学校名	国	学校名
	American Intercon School		Number100 High School
Cambodia	Cheasim Chamroeunrath High School		Tianjin Foreign Language School
Cambodia	Preah Sisowath High school		Tianjin Nankai High School
	Yunkunthor High School	China	Tianjin 25th Middle School
	SMAN 2 Cibinong		Tianjin Tanggu NO.1
	SMAN 2 KOTA TANGERANG SELATAN		Tianjin Xinhua High School
Indonesia	SMAN 97 Jakarta		Tianjin Yaohua School
indonesia	SMA Negeri 81 Jakarta Timur. (81 Senior High School East		秋田県立秋田南高等学校
	Jakarta)		福井県立高志高等学校
	97 Jakarta High School		広島大学附属福山中・高等学校
	International School Of Laos	Japan	石川県立金沢泉丘高等学校
	Kiettisack International School		神戸市立葺合高等学校
Laos	Neerada School		名古屋大学教育学部附属中・高等学校
Laus	Phonesavan		渋谷教育学園幕張中学校・高等学校
	Sinxay School		Kanchanapisek Witthayalai Nakornphathom
	Vientiane Secondary School		Patumwan Demonstration School
	PRACTISING HIGH SCHOOL YANGON UNIVERSITY OF EDUCATION, KAMAYUT	Thailand	Satit Chula University Demonstration Secondary School
	Basic Education High School No(2) Latha		Sarasas Ektra
	Basic Education High School, No.1, Dagon		Saint Gabriel's College
	Desir Education High Cabar Na (2) Congruence		Saint Joseph Convent
Myanmar	Basic Education High School No(2), Sangyoung		Chu Van An High School
	No (2) Basic Education High School		Hanoi Amsterdam High School For The Gifted
	Kamayut , Yangon		Le Hong Phong High School For The Gifted
	B.E.H.S (4) Ahlone	Vietnam	Nguyen Huu Huan High School
	No(2)Basic Education High School,Bahan		Phan Dinh Phung High School
Malaysi-	MRSM KUALA BERANG		PHAM PHU THU HIGH SCHOOL
Malaysia	SMK MERU		THPT Nguyen Trung Truc

#### 【12】参加高校生の感想 (アンケートより抜粋):



(カンボジア)



このプログラムに参加できなかった人たちにも、もっと注意して安全に過ごせるように、という言葉を広めたいと思いますし、このパンデミックの状況を軽くするために政府に頼るのではなく、私たち市民、学生、国の若者に何ができるか、というように、違う視点で考えてほしいと思います。21 世紀の今、このようなオンラインプログラムは本当に効果的な方法だと思います。家からプログラムに実際に参加することができることを示してくれました。しかし、個人的にはオフラインの方が楽しくて効率的だと思います。



(中国)



自分に自信を持って可能性を見つけ、自分の居心地の良い場所から一歩踏み出し、国際協力の考えを周囲に伝え、固定観念を打ち破る努力をしていきたいと思います。また、友情を保ち、常に意見交換をしたいです。チームディスカッションを通して、相違点違よりも共通点の方が多いことや、チームメイトの意見をよく聞くことが大事だと思いました。 (Tianjin Xinhua High School)



(インドネシア)



このプログラムでは、新しく出会う人たちと議論し、知識を得て、新しい視点を持つことを期待していました。短期間でしたが、新しい友達もできたし、新しい知識も得られたし、講義の度に新しい視点で考えられる様になりました。チームディスカッションでは、じっくり考えてから、自分の正直な意見を伝えなければならないと思いました。チームメイトからは、国によって様々な考え方があることを学びました。 (SMAN 2 Cibinong)



(日本)



チームワークの大切さを学ぶことを目標にしていました。プログラムでの経験を活かし、失敗を恐れずに行動していこうと思います。プログラムについては、相手の気持ちを知ることができるので、オンラインよりも対面でのコミュニケーションが一番だと思います。また、チームメイトのほとんどが日本のアニメのことを知っていたので、日本の文化は思っていた以上に有名だと実感しました。

(石川県立金沢泉丘高等学校)



このプログラムに参加することは挑戦でしたが、3 日間で自分にしかできない経験を積むことができました。世の中にはたくさんの出来事がありますが、日常生活の中では気づかないことが多すぎると思います。だからこそ、今まで経験したことのないことに一歩踏み出し、自分を取り巻く様々な出来事を知り、将来的には一人でも多くの人の心の支えになれるような人間になりたいと思っています。海外の皆さんと共通の話題で話すことができ、良い経験になりました。言葉が違うだけで、話していることは同じだということを身近に感じることができたので、驚きでした。

(福井県立高志高等学校)



参加者一人一人の文化の違いによって、同じものを見ているのにもかかわらず、考え方の違いが生まれていることを知りました。今回のプログラムでは、異なる視点を持った人たちと議論することができたので、多くのことを学ぶことができ、良いチームワークや結果を生み出すことができたと思います。

(渋谷教育学園幕張中学校・高等学校)



私は英語力だけでなく、ディスカッション力を身につけたいと考えていました。例えば、自分の意見を明確に表現する力を高めたいと考えていましたし、教育面でも視野を広げたいと考えていました。 このプログラムを通して、英語を聞いて自分の考えを伝えるという点では、まだまだ改善の余地があることを知りました。自分の意見を言うことに慣れ、自信を持つことが大切だと思います。

(神戸市立葺合高等学校)



日本の文化に興味を持っている友人がいたのですが、うまく説明できませんでした。 もっと英語力をつけて、自分の国や文化を海外の皆さんに説明できるようになりたいと感じました。オンラインでのプログラムは、通信トラブルが起き、話すタイミングが難しく、お互いの顔を見て話す方が良いと思いました。 (秋田県立秋田南高等学校)



このプログラムでの経験を通して、日本だけでなく海外の教育制度にも興味を持つようになりました。 今後は教育をについて学べる大学に行けるように、これからもっと勉強していこうと思います。また、 この様なオンラインプログラムは、遠く離れた海外の人たちとの活動がしやすくなるので、今後も利用 するべきだと思います。 (名古屋大学教育学部附属中・高等学校)



私は他の国の学生と英語でうまく話せませんでした。海外の学生の英語スキルは、私の予想を超えていました。チームメイトから英語力を上げるために、発音の仕方やもっと積極的に話すことなど、たくさんのアドバイスをもらったので、私もチームメイトのようにもっと勉強して、社会のために何かをしなければならないと思います。プログラムを通して知り合ったメンバーとのつながりを大切にしていきたいです。 (広島大学附属福山中・高等学校)



(ラオス)



講義やチームプレゼンテーションを通して新しいスキルを学び、より多くの知識を得ることができたと思います。私たちのような若い世代がこの世界の新たな希望となることを確信しました。直接会うことができなくても、オンラインでお互いの国がどうなっているのかを聞いたり、新型コロナウイルスが彼らの生活や国にどのような影響を与えているのかなどについて意見交換したりすることができます。相手国の状況を知ることは非常に有益であり、ユースリーダーズとして一緒に問題を解決する方法を見つけていきたいと思います。

(Neerada school)



(マレーシア)



自分自身をもっと成長させたいと思い、このプログラムに参加しました。アジア各国の教育事情について様々な視点から学ぶことができたと思います。今回はオンラインでのプログラムでしたが、対面式の方が、チームメイトともっと上手くコミュニケーションを深めることができたと思います。

(MRSM KUALA BERANG)



(ミャンマー)



このプログラムに対して、各国の教育について異なる視点を学ぶことができると期待していました。 今後は、VR 学習プログラムなどの先進的なシステムを教育に応用していきたいと思います。チーム ワークから人と人との絆の大切さを学び、アジア各国の学生との文化交流もできました。

(Practicing High School, Yangon University Of Education)



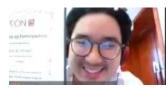
(タイ)



プログラムは終わりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が国ごとに違うので、引き続き他国のチームメイトと連絡し合っていきたいです。プログラムを通して、チームワークや、役割分担をすることについて多くのことを学びました。今後この様な機会があった時に、このプログラムでの経験を活かしたいと思います。また、私たちの文化がどのように似ていて、どのように違うのかについてチームメイトと話し合うことができました。 (Patumwan Demonstration School)



(ベトナム)



オンラインでのプログラムは、一歩一歩大きく改善されていますが、対面での出会いに取って代わるものはないと思います。チームワークを通して多くの事を学びました。チームビルディングの時には、お互いの事をもっと知ってもらうために生い立ちの話を共有しました。異なるバックグラウンド持つチームメイトの皆さんから常に学ぶべきことがたくさんある事を実感しました。

(Nguyen Huu Huan High School)

#### 【13】各チーム発表内容(概要)

#### ■チームA コロナ禍における教育上の混乱と解決策

- 1. 学校内施設の許可
  - (1). コンピューター、タブレットなどのテクノロジーアイテムの提供
  - (2). 学校における生徒の健康管理強化
  - (3). 公平に全学校に対し必要な設備を整理し、学生がどの学校からも同じ様に勉強できる様にする
  - (4). 基礎教育の構築への投資
  - (5). 校内診療(保健室)の改善
- 2. 勉強方法の変更
  - (1). プレゼンテーションやディスカッション、科学的課目の実験など、さまざまな形式の勉強法を活用
  - (2). 各学校の状況に合った教育プログラムの開発
- 3. 政府による政策の改善:
  - (1). 他国との連携により、技術力とシステムを教育に提供
  - (2). 金銭的に余裕のない家庭に対する一部の学校の無償化

#### ■チームB **教育の障壁を乗り越える**

1. 体系的な変更

学校と政府のパートナーシップによる学習用機器とオンライン学習プログラムの提供 +生徒側による学習用のプラットフォーム/ウェブサイトを開発

- 2. 教師や友人と話すためのズーム(オンライン コミュニケーションツール)を用いてのセッション 双方向で対話できるゲームなどを提供
- 3. 新しいオンラインクラスミーティングシステム
  - (1). 最初の5~10分、先生が趣旨を説明
  - (2). 先生は生徒が話し合うための質問やトピックをグループに与える
  - (3). 生徒がグループに分かれディスカッション
  - (4). 先生がもう一度趣旨の補足説明をし、ディスカッションのトピックを与える
  - (5). 先生がグループディスカッションの内容をチェックする(これを繰り返す)

#### ■チームC **3 つの"A"**

1. アクセシビリティ:

インターネットの普及およびハード面(タブレット等の無償提供)を促進することで、デジタル格差を縮める

2. 能力:

学習効果向上と生徒間での双方向コミュニケーションの機会を増やし、メンタル面を改善する

3. 適応性:

長期的で持続可能な教育システムを構築することで、生徒と教師が変化に適応できるようにする

#### ■チーム D

1. オンラインとオフライン教育両立

バーチャルリアリティをツールとして使うハイブリッド教育の提供

- 2. 人々が自分の行動に責任を持つことを奨励する教育システムの構築 情報を教えるだけでなく、各個人の考え方を発展させる
- 3. 教育の公平性と体系的な変化を優先する どこでも利用できる低予算インターネットアクセスの提供

#### ■チーム E

1. 反転授業

教わるのではなく、自ら教わりにいく学習。

2. PBL (Project Based Learning) 戦略 トピックについてチームで取組み、発表する。チームワークを通してリーダーシップ、コミュニケーション能力を高める。

3. オンライン学習データベースと WiFi 経由でのオンライン学習への無料アクセス いつでもアクセスできる学習サイトを構築し、誰でも勉強ができるようにする。

4. 柔軟な学習

必要に応じて学びたい分野を選択できるようにする。

#### ■チーム F

- ●持続可能な開発目標:
  - ・政府は、テクノロジーへのアクセスと適切な学習資料不足を補うため、地方の学生を支援する
- ●教師の質を向上させる:
  - ・教員研修を強化することで、教師に技術的スキルを身に付けさせる
- カリキュラムを調整する:
  - ・各学生が自分の可能性を活用できるように、各学生が興味を持つ分野に対し、効果的で柔軟なカリキュラムを作成する
- ●ストレスを和らげる:
  - ・農村部の学生や金銭的に恵まれない学生への財政援助
  - ・高速な wifi 設備を整備し、タブレット等の電子機器の提供
  - ・電波受信可能範囲強化によるラジオまたはテレビ番組の全国放送
- ●勉強をもっと面白くする:
  - ・より多くのコミュニケーションと双方向のやり取りができるように学生を奨励する
  - ・より多くの活動を提供することで、誰もがアイデアを共有して社会的スキルを向上できるようにする
  - ・ゲームなどの活用で講義を充実させる
  - ・生徒のプレッシャーを緩和するためのアクティビティーを考案する
  - ・メンタルケアを提供する

#### ■ チーム G 学校教育と COVID-19 パンデミックの戦い

- 1. 教師からの提案を受けながらのセルフスタディー
- 2. アジアユースリーダーズの様な他の国との協力
- 3. 教科書から予習する
- 4. プロジェクトまたはタスクに基づく調査 (学生が頼ることなく自分の調査とスキルを実行できるようにするため)
- 5. 大規模なオンライン学習の普及
- 6. 心と身体の健康維持
- 7. 教師と生徒のための新しい日常

#### ■チーム H 新型コロナウイルス感染症における包括的教育のための解決策

- 1. テクノロジープロジェクトとの協働によるインターネット接続プラントの構築
- 2. 柔軟なカリキュラムの確立
- 3. 教師に必要なトレーニングの提供

#### ■チーム I

- 1. 教育省によるパンデミック発生時の学生支援
  - ・オンライン家庭教師----無料のオンライン家庭教師サービス
  - ・教育省作成の教育サイト
  - ・学生の就職支援として学生同士が意見交換できるスタディクラブ立ち上げ
  - ・対面とオンラインの混合ラーニング機会の提供
- 2. 学生の学習成果の管理と評価の改善
  - ・学生と教師への教育技術の提供(教師と生徒の両方に ICT レッスンを提供)
  - ・学生と教師向けのオンライン学習方法に対するサポートプログラムの作成
- 3. 政府と企業間の協力
  - ・政府による低中所得世帯の人々に対する資金提供 インターネット企業や電子機器メーカーと協力し学習用タブレット等を手頃な価格で作成

#### ■チーム J

1. 政府、NGO、民間企業、世界銀行、国連の協力による問題解決への取り組み 資金調達によってリモート教育を可能にし、オンライン(コンピューター)およびオフライン(テレビ、ラジオ等)両方の学習 を効果的なものにする

#### 2. 学生

- -生徒のやる気を引き出し、個人の目標設定をさせる
- -自分自身による計画、実行、チェック、改善ができるシステムの構築
- -学生に共同作業を促す
- -メンタルヘルスカウンセリングの提供
- 3. 長期計画
  - -医療機関による予防策の策定
  - 予防策についての学生の教育
  - -学生のための地球規模でのオンラインコミュニケーション促進
- 4. 将来のキャリア サポート
  - -学生の多様化するニーズに対応した就職支援サポート
  - -政府による雇用機会創出のための新興企業に対するサポート

#### 【14】記事

Facebook

カンボジア王国教育青年スポーツ省 2020 年 12 月 19 日掲載(https://www.facebook.com/moeys.gov.kh/)



<sup>\*</sup>その他 渋谷教育学園幕張中学校・高等学校のホームページでも紹介されています。

(https://www.shibumaku.jp/topics/students/2020-asia-youth-leaders/)